

丹波屋善康



御菓子司 丹波屋善康の 落雁木型コレクション

おんかしつかさ たんばやぜんこう
御菓子司 丹波屋善康

1951年、天理市に落雁専門店として創業。以来、変わらず神社仏閣や茶席などの要望を受け落雁づくりに励んでいます。初代そして2代目店主が築いてきた地域・顧客との信頼関係を引き継ぎながら、落雁の魅力をさらに多くの人へと伝えていきます。

奈良・天理にて、紋菓づくりを行う落雁専門店。
多種多様な神紋・寺紋の木型からその一部を紹介します。

丹波屋3代目店主
磯野隆一さんが考える
落雁の魅力



落雁は、古くから上菓子(上等なお菓子・献上菓子のこと)に属し、神社仏閣の撒饌、御供物や引き出物、またお茶席にも使われています。一族の子孫繁栄が込められた家紋や、それぞれの神紋・寺紋のかたちをなした落雁の数々。自分の心のなかにあるものや自然、相手を思って祈り供えるもの=落雁とすると、現代においては、親しい・大切な人たちや家族と、少し特別な時間を過ごすときにこそ味わっていただけたら嬉しいです。このコレクションでは、主に奈良の神社仏閣に納めている落雁の一部をご紹介します。見たことのある家紋から愛嬌のあるモチーフまで、そのかたちも含め楽しんでみてください。

石上神宮
いそのかみじんぐう



自然現象や植物、動物を
モチーフとする紋の文化

上藤 あがりふじ

天理市にある布留山の北西麓高台に鎮座する日本最古の神宮。そちらには、春日大社・興福寺を氏神・氏寺とする藤原氏に代表される藤の紋(藤原氏の場合は下藤)の落雁を納めています。このような自然をモチーフとした数々の紋は、日本の自然風土とより密接な関係にあった時代から現代に続く大切なもの。ちなみに上藤は「運氣を上げる」という意味も込められているのだとか。

室生寺
むろうじ



九目結紋 このつめゆいもん

真言宗室生寺派大本山の寺院。春の石楠花、秋の紅葉の時期に野点茶会が行われる際、お抹茶と出される紋菓子。

安倍文殊院
あへもんじゅいん



オリジナル

大化元(645)年に創建された華嚴宗の寺院。御本尊は、ことわざ「三人寄れば文殊の智恵」で有名な文殊菩薩。

浄妙寺
じょうみょうじ



足利二つ引き

臨濟宗建長寺派の仏教寺院。一つ引きは宇宙の根源を表す太一(太極)、二つ引きは日と月の精を表すとされています。足利氏の家紋。

帯解寺
おびとけでら



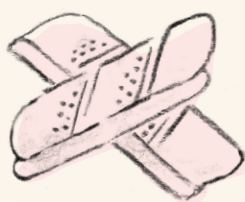
オリジナル

華嚴宗の寺院。本寺で祈祷した文徳天皇が子どもに恵まれ、「無事帯が解けた寺=帯解寺」と勅命したことが名の由来。

長岳寺
ちやうがくじ



慈光院
じこういん



割羽違い

大和郡山にある臨濟宗大徳寺派の寺院。矢羽が破魔の縁起物としてあしらわれた紋。茶人・片桐石州の家紋でもあります。

オリジナル

「山の辺の道」にある高野山真言宗の寺院。祈祷・供養の際にお出しする落雁。火焰宝珠紋に寺の山号「釜口山」があしらわれています。

＼ほかにこんな落雁が！／



輪違



鶴丸



向かい鳩



十六菊



五七桐



真向き兎

参考文献:『日本の家紋と姓氏』伊藤みろ著、誠文堂新光社、2013年/『面白いほどよくわかる 家紋のすべて』安達史人著、日本文芸社、2012年

天理ブランドモノづくり支援事業から生まれた商品

知人・家族との少し特別な時間を彩る「本葛落雁」「朧落雁」



落雁は、砂糖と米粉を木型に詰めて乾燥させたシンプルな和菓子。御供物や茶湯の菓子として親しまれているなかで、その魅力を若い人にも知ってもらいたいと、口どけがなめらかな本葛落雁、果物などの素材がほのかに香る朧落雁をつくりました。たとえば、お抹茶だけではなく、コーヒーや紅茶に合わせるなど、知人や家族と一緒に少し特別な時間を楽しむときの、選択肢のひとつとして販売しています。パッケージも一新し、贈答用にもおすすめです。

朧落雁・白 紅茶/シナモン/きな粉/青きな粉/ラムネ/麦 各600円
朧落雁・黒 柚子/檸檬/苺/ラズベリー 各900円
本葛落雁 1,800円
※参考価格

つくり手のひとこと

紋菓子・落雁は、ほかに植物・動物・器材などさまざまな紋の種類があり、見た目もおもしろいものが多いです。Webサイトにも少し掲載しているので、ぜひご覧ください。

御菓子司 丹波屋善康

住所 奈良県天理市機本町739-2
Tel 0743-65-2147

